

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 135 在宅医療奮闘記



在宅医療の現場を直撃する新型コロナウイルス感染症 〔COVID-19〕

急ぎワクチン接種会場化した院内(対象のスタッフ約150名)と
介護施設(対象の患者さま約1300名)でワクチンの接種を行いました。



ワクチン接種は令和3年6月7日から7月18日の期間での予定でしたが、諸事情により、例外的に8月1日まで受け付け、なんとか全員への接種を終えることができました。

その内、重篤な副反応のため、救急搬送したのは1名のみでした。

また、接種者の3割の人は発熱、動悸、じんましん、気分不良、血圧上昇など、何らかの症状がありましたが、様子観察もしくは解熱剤の処方のみで対応できました。

今、私たち医療従事者は時代から厳しく問われている。「本当にまかせていいのか? 生命を…」と。当然良識、学識をもち厚労省の医療介護政策通り業務の遂行をしています。

2025年問題を見据えて、在宅にて患者さまを中心とした(病院は重度患者の入院対応)医療体制が十分とれていきました。「愛と観智を矜持とする」哲学をセンターポイントにしていました。

しかし不況・災害、特に感染症、今回のCOVID-19はそれをあざ笑うかのごとく、今までの態勢を打ち碎き、私たちにさらに哲学のパラダイムシフトを求め、本当に「真の社会保障、

未来型社会保障を提供する気があるのか」「できるのか」とあらためて問うているのです。

もし私たちにそれができなければ社会保障は破滅・崩壊の道かどうかの交差点に差し掛かっています。

あらためて言う。

今は経済も文化も暗黒時代と言われていますが、自然界では朝の来ない夜はないはずです。

ダイバーシティープログラムの発想で、パラダイムシフトすれば、必ず夢のある幸せな未来、社会保障の再構築は十分可能です。私たちはそれを「ノアの箱舟作戦」と称して歩んでいきたいと思います。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人たちを救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ

外来診療(かかりつけ医)内科 要予約

内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師/葉村 歩)

お医者さんが
来てくれる!
24時間・365日体制で対応
(松山市全域)

私たち、質の高い
在宅医療・看護・介護を
目指しています。

医師数 22名
(令和3年8月現在)
末期がん治療
(緩和ケア)
相談室開設!

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
<http://www.touzaikai.jp/>